



公益財団法人

石川県

成人病予防センター  
だより

[第46号]

いしかわ成人病予防センターだより

第46号 [2024年]

発行日 令和6年(2024年)●月発行

金沢市鞍月東2丁目6番地

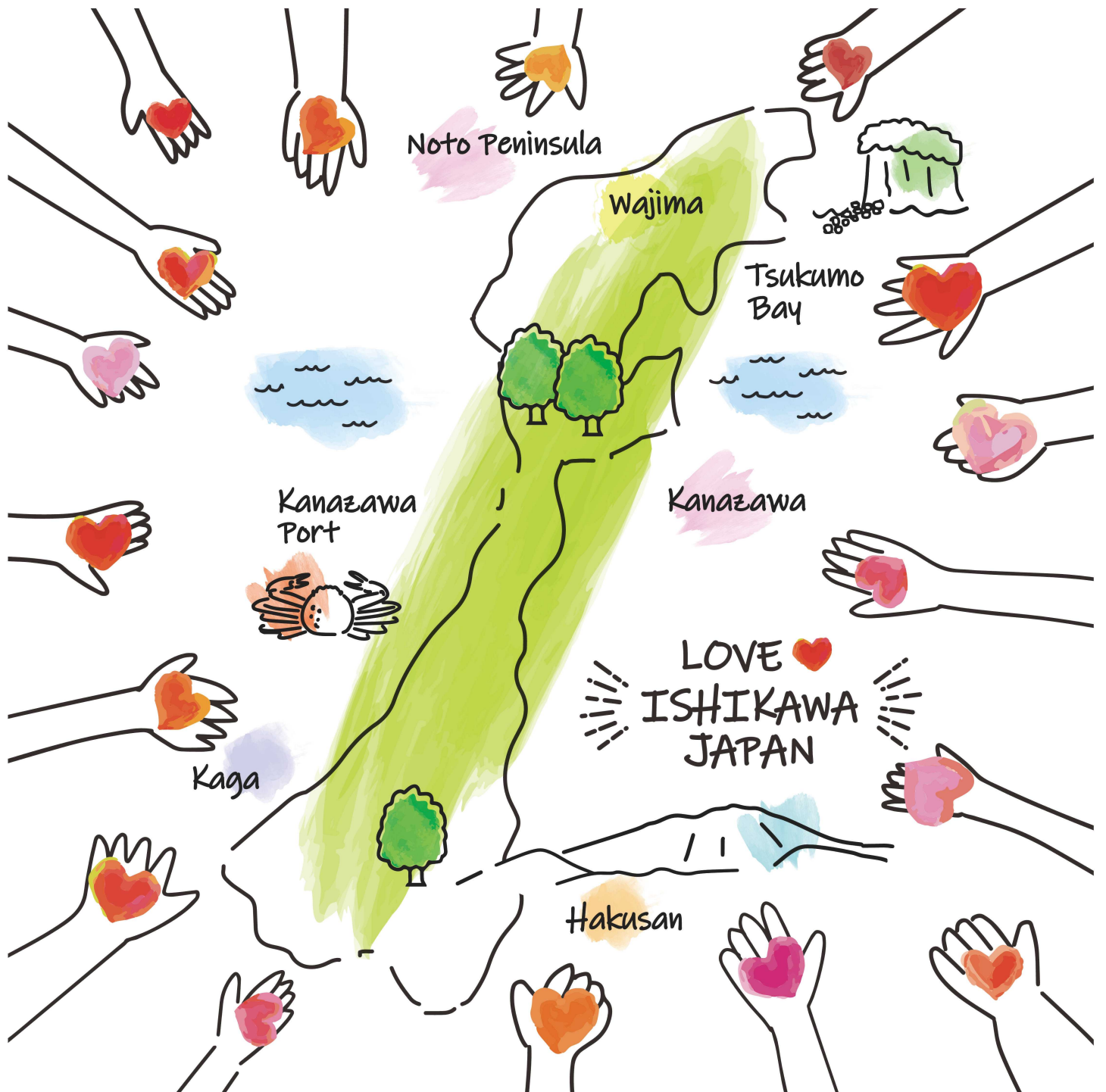
電話 (076) 237-6262

FAX (076) 238-9207

郵便番号920-8201

E-mail smile@kenshin-ishikawa.or.jp

URL https://www.kenshin-ishikawa.or.jp/



**特集**

大腸がん検診の30年 平成の石川県成人病予防センターを振り返って  
わが町のがん検診:野々市市

# 大腸がん検診

# 30年のあゆみ

## 大腸検診の軌跡

### 【検診成績の推移】

石川県成人病予防センター（以下センター）では、昭和62年から平成元年までの3年間を試行期間として3市町を対象に大腸がん検診を開始した。

平成2年には石川県の補助事業として全41市町村を対象に施行され、センターでは20市町村の大腸がん検診を行った。

平成4年には、老人保健法に含まれる国の事業として実施され、石川県では、集団と施設検診方式で行われた。センターは集団検診機関として28市町村から委託され、その後受診者数は右肩上がりに増加した。しかし、施設検診への受診者の移行や、平成10年にがん検診が老人保健法から外れ財源が地方交付税となったことが影響し、平成10年以降は減少傾向となった。

平成16年から18年にかけて、平成の大合併（19市町に再編）が行われた。それにもなう委託先の変更でセンターは15市町の大腸がん検診を行い、受診者数が一時増加した。

平成19年4月にがん対策基本法が施行され、同年6月に「がん対策推進基本計画」の策定によりがん検診の受診率を50%とする目標値が掲げられたが、平成の大合併の影響や特定健診制度への移行時の混乱で、集団検診、施設検診ともに大幅な受診者減となった。

平成23年から平成27年までの5年間に、受診率の向上を目的に国の施策で「働く世代への大腸がん検診推

進事業」が行われた。対象者は41、46、51、56、61歳の男女で、検診無料クーポン券を配布する方式で行われた。その結果、受診者数は増加を示したが、無料クーポン終了とともに、受診者数は減少した。現在は受診者数の減少は止まり、ほぼ横ばいである（表1）。

### 発見大腸がん患者を、石川県の成人病管理指導協議会に大腸がん部会が設置された平成

4年から29年の石川県住民を対象とした検診結果で見ると、センターは平均38・6%の住民について検診を実施し（石川県の集団検診60・3%）、1,083名の大腸がん患者を発見した。これは、石川県全体で発見された3,155名の、34・3%にあたる（表2）

うち早期がんは657名で、石川

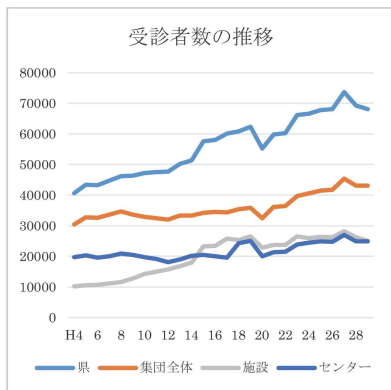


表1

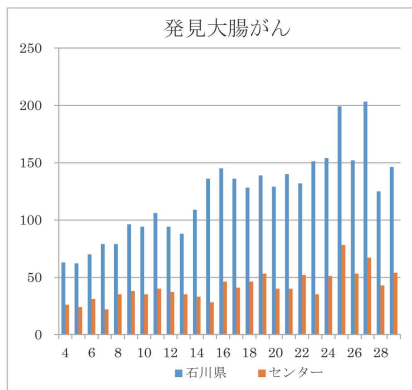


表2

県全体で発見された1,877名の、35・0%にあたる（表3）。

### がん発見率で見ると、検診開始当初は0・10%台を推移していたが、徐々に発見率は上がり平均0・19%である。県全体では平均0・22%、個別検診では平均0・26%と個別検診でのがん発見率は高かった（表4）。

早期がん割合で見ると、センターでは平均59・1%と県全体の平均58・2%、施設検診の平均59・0%と差は無かった（表5）。

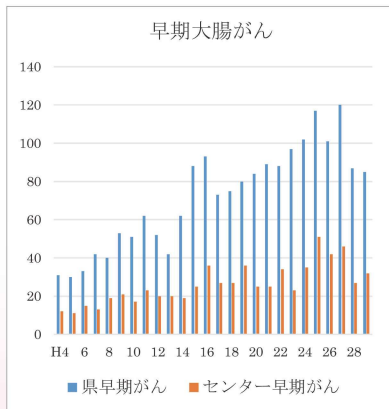


表3

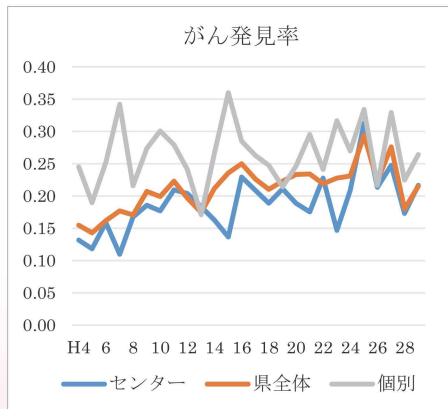


表4

センターの検診成績は、国が定めるがん検診のプロセス指標におけるがん発見率（許容値）の0・13%を超えている。

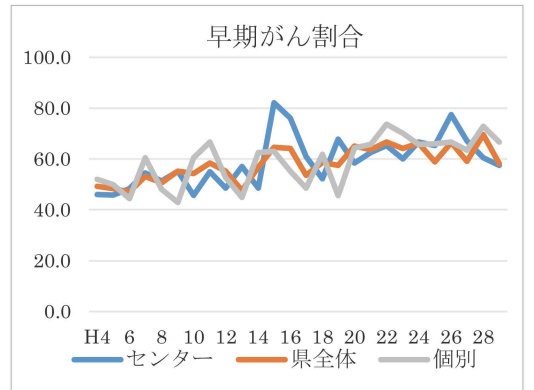


表5

### 【検診方法の推移】

昭和62年の試行期間中、便潜血検査方法として免疫学的便潜血検査（ラテックス凝集法・OC・ヘモディア）を用い便潜血結果と問診の結果で判定する検診方法で行った。

平成2年には、対象者を40歳以上の男女とし、便潜血結果（定性2日法）のみで判定する検診方法に変更し、胃がん検診と同時併用で行なった。なお、目視的に採便されていない場合は、要再検者として1回に限り再検査を実施した。

平成4年に老人保健法によって大腸がん検診も実施されることとなり、厚生労働省より作成された大腸がん検診マニュアルに準拠し、年1回40歳以上の男女が対象で、免疫学的便潜血検査2日法で行った（再検査は実施しない）。

平成5年度より用手法のOC・ヘモディアから自動化されたOC・センサーに変更し定量値測定が可能となった。OC・センサーの導入に際し、OC・ヘモディアの肉眼的擬陽性（±）がOC・センサーの131ng/mlであったことから、それより低濃度の25.85ng/mlで繰

り返し試験を行い、CV値が3〜5%の良好再現性であったことから、スクリーニング基準値（陽性カットオフ値）を130ng/mlとした。結果報告に関しては、システムの都合上、定性結果での報告のままである。なおこの時点では、県下の検診機関におけるカットオフ値は統一されていない。

平成8年度から、平成10年度までの3年間、便潜血検査結果が陽性以外の100〜129ng/mlと判定され、複数の自覚症状を有する方、あるいは前年度ポリープの認められた方についても精密検査を促した。その後の検討により、平成11年度検診より130ng/mlの陽性カットオフ値で判断することが正式に決まった。この年、OC・センサーIIへ機種変更を行った。

平成14年度より検診システムを改修し、要精検者について定量値報告が開始された。

平成16年度からOC・センサーneoに機種変更、平成21年度からOC・センサーDIANAに機種変更し長く使用した。令和2年度からOC・センサーPLADIAに機種変更した。

### 【精度管理の推移】

昭和62年の試行にともない、センターに大腸がん集団検診専門委員会を設置した。

平成4年に老人保健法により施行されることとともない、石川県の成人病管理指導協議会に大腸がん部会が設置され（H4.7.1設置）、国、県レベルで精度管理が行われこととなった。

同時に、センターの大腸がん集団検診専門委員会は、大腸集団検診委員会に改名された。

平成5年1月開催の大腸集団検診委員会では、結果報告について話し合わせ、便潜血検査陰性（-）は「異常なし」から「潜血陰性」と通知するよう変更した。問診についても協議され、血便（+）のみが1%の危険度で有意差があることも報告された。

平成5年度より定量値で測定可能となったことか

ら、発見大腸がん患者とがん以外の便潜血結果を比較する調査を行った。検診時定量値の480ng/ml未満と480ng/ml以上を比較すると発見大腸がん患者のみ480ng/ml以上が有意に高いことがわかった。

平成11年度より2日分（2本）とも500ng/ml以上または1本でも1000ng/ml以上はハイリスク者として市町村に報告することとした。

平成13年度には、大腸がん検診の受診者増を目指し、大腸がん検診を受ける方へのリーフレットを作成した。

平成14年度には、システム改修を行い要精検者について定量値報告が可能となり、同時に精検の受診率アップを目指し「要精検」となれた方へのリーフレットを作成した。

平成19年6月に厚生労働省よりがん検診の事業評価に関する報告として、大腸がん検診のための事業評価のためのチェックリストが発表された。この内容は精度管理に重点を置いたものであり、受診者への採便方法から精密検査方法まで細かく明記されセンターも対応した。

平成21年12月開催の大腸集団検診委員会では精検受診率の低さと共に、精密検査を全大腸内視鏡以外の検査方法で施行している医療機関があることが問題となり、注腸エックス線検査のみで施行している医療機関には、大腸集団検診委員会委員長名で改善をお願いする文書を送付した。同時に石川県生活習慣病検診等管理指導協議会の大腸がん部会で協議することとなった。

平成22年度には、精密検査を全大腸内視鏡で施行して頂くために、結果通知、精密検査用紙の文面を修正した。

平成28年12月開催の大腸集団検診委員会では、精密検査方法として不十分なS状結腸内視鏡のみで精密検査を施行している医療機関について大腸がん部会を通してアプローチして頂くこととするなど、診断精度向上に向けての働きかけを行っている。



野々市市  
のいちし  
NONOICHI CITY

# わが町のがん検診

野々市市

谷村

佐保里



## ○市の概要

本市は、石川県のほぼ中央、加賀平野の東部に位置し、北部から東部にかけては県庁所在地である金沢市に、西部から南部にかけては白山市に隣接し、肥沃な土地と良質な地下水に恵まれた手取川扇状地にあります。近年は、旧市街地に加え、土地区画整理事業などによる新市街地が国道沿いや本市南部、北西部で形成され、市中央部には、行政、経済、文化、交流等の機能が集積しています。人口は増加傾向にあり、令和2年国勢調査では57,238人でした。総人口のうち、65歳以上の高齢者が占める割合は上昇傾向にあるものの、県内他市町に比べて低い水準で推移しています。大学生世代を含む20～24歳の男性が突出して多いほか、子育て世代にあたる30代、40代の人口が多くなっています。

近年の出生数の減少と死亡数の増加により、自然増の幅は緩やかな減少傾向にあります。

## ○野々市市の

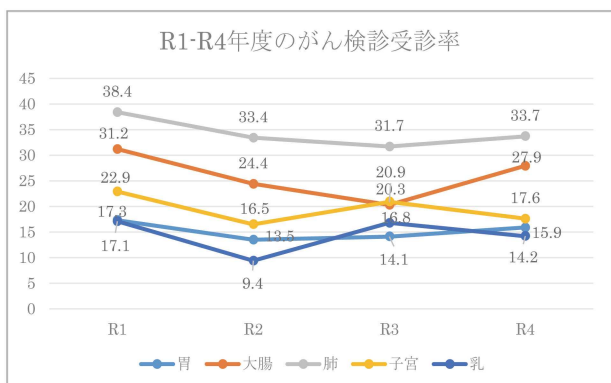
### がん検診と受診率

令和元年～令和4年の受診率はグラフのとおりです。

種類：胃、大腸、肺、子宮、乳

令和5年度実施期間…

集団検診 5～9月  
医療機関検診 7～9月



## ○コロナ禍でのがん検診の現状

野々市市では、令和2年度から新型コロナウイルス感染症対策のため集団検診を完全予約制にし、受診人数や受付時間を制限して行っています。完全予約制にすることで検診会場での滞在時間を短くし、会場内の動線も人が交差しないよう1周する形に変更しました。また、女性がん検診については2会場で実施するなど、石川県成人病予防センターの方々に柔軟に対応していただき、スムーズな検診を実施することができました。

集団検診は受けやすく、市民の方にも浸透しています。令和3年度は集団検診での大腸がん検診を感染症拡大防止のため中止したことで大腸がんの受診率は大きく下がってしまいました。

今後は集団検診の1時間当たりの予約者数の上限を緩和する、医療機関検診を拡充するなど、受診率の向上に向けて取り組みを行ってまいります。

## ○がん検診受診率向上の取り組み

- ・ 検診の受診券を対象者に個別送付
- ・ 広報やラジオ、ホームページでの周知
- ・ FacebookやInstagram、LINE等での受診勧奨の実施

### 『集団検診』

- ・ 検診の受診券に予約申し込みハガキを同封
- ・ 石川県成人病予防センター開設の予約状況確認サイトで最新情報の確認が可能

- ・ 特定健診と各がん検診を同時に受診可能な集団総合健診の実施
- ・ 土日や夜間の検診の実施
- ・ 女性がん検診を2会場で実施
- ・ 女性がん検診に併せて骨粗しょう症検診（骨密度測定）の実施

### 『医療機関検診』

- ・ 市内外のがん検診受託医療機関の拡充
- ・ 受診可能医療機関が少ない乳がん検診については、居住地に関係なく県下全域の医療機関で受診できる広域的な乳がん検診事業の実施
- ・ かかりつけ医による受診勧奨
- ・ 国が推進しているがん検診（胃、肺、大腸、子宮頸、乳）だけでなく、前立腺がんの実施

## ○今後の展望

がん検診受診率は国の目標値である50%には遠く及ばず、またコロナ禍前の受診率まで回復していません。検診の利便性の向上に加え、今後も様々な機会に検診の必要性について周知することで定期的に受診していただくよう努めていきます。

また、国の指針に基づいて検査の精度管理を行うとともに、安全安心にがん検診を行う必要があります。国が推奨する検診方法や対象者などの動向を見ながらすすめていきたいと思えます。

石川県成人病予防センターの方々には今後ともご協力のほどよろしくお願いいたします。

# 新人紹介

**名前:**山崎 由紀子(やまざき ゆきこ)  
**職種:**看護師  
**採用年月日:**令和5年4月  
**出身地:**石川県  
**趣味:**ジム、ドライブ  
**特技:**傾聴すること  
**好きな食べ物:**トマト  
**メッセージ:**



昨年より循環器健診、子宮頸がん検診、胃がん検診に携わらせて頂いています。以前は病院で勤務していたため、その経験も活かしながら日々の健診を行っています。病院では、健診受診歴がなく体調不良を自覚して受診すると、既に病状が進行している方と関わることもあり、早期発見・早期治療の重要性を感じていました。お仕事や家事・育児等日々の生活が忙しく、ご自分の身体と向き合うのはなかなか難しいかもしれません。ですが、1日でも長く元気で過ごせるよう、年に1回でも体の声に耳を傾けてみませんか。皆さまの健康を守るようお手伝いさせていただきますので、何卒健診の受診をお願い致します。

**名前:**野口 真季(ノグチ マキ)  
**職種:**総務課 書記  
**採用年月日:**令和5年4月  
**出身地:**石川県金沢市  
**趣味:**旅行、音楽を聞くこと  
**特技:**工作  
**好きな食べ物:**甘いもの、から揚げ  
**メッセージ:**



はじめまして。昨年4月より総務課情報グループに配属され、受診票の作成や健診内容のデータ集計など、主にセンター内での業務に携わっています。これまで受診者側の立場で何気なく受けていた健診ですが、センターでの業務を通じて、自由に楽しく暮らすために健康は欠かせないものと、私自身、日々実感しています。未熟な点があるかと思いますが、年に1度の健診の機会が受診者の皆様の健康づくりとより良い生活へとつながるよう、一層励んで参ります。どうぞよろしくお願いたします。

# 複十字シール運動

日本と世界から結核と胸の病気をなくすための活動「複十字シール運動」

## 県内各市町と金沢市校下の結核予防婦人会より多額の募金をいただきました

日本と世界から結核と胸の病気をなくすための活動「複十字シール運動」の募金運動では、例年県内各婦人団体協議会からのご協力をいただいております。その募金額は全体の6割にも達します。

今年度も各婦人団体協議会に活動へのご協力をいただき、12月1日に石川県婦人団体協議会、12月8日には金沢市校下婦人会連絡協議会からの募金贈呈式が行われました。



## 複十字シール運動を PR 西垣副知事を表敬訪問

令和5年度複十字シール運動が8月1日から12月31日まで実施されました。この運動開始に併せて8月3日に県結核予防婦人会の能木場由紀子会長と、結核予防会石川県支部の青木哲雄専務理事、ほか担当で石川県庁を訪れ、西垣淳子副知事に運動への理解と募金への協力を訴えました。



## がんキャンペーン 4年ぶりに街頭キャンペーンを実施しました

9月29日(金)に石川県音楽堂邦楽ホールで開催された、日本生命がんセミナーに併せて街頭キャンペーンを実施しました。

石川県健康推進課と日本生命の方々と共に、音楽堂の正面と邦楽堂エントランス前でがん啓発リーフレットやポケットティッシュを配布しました。今回は石川県健康づくり応援企業のマスコットキャラ「けんしんくん」も登場し、多くの方々にごがん検診を受診して頂けるようアピールを行いました。



# かなざわピンクリボンプロジェクト

## メッセージマジック

がん克服者のファッションショーを開催しました。

今年度、石川県では、ウィッグ・乳房補整具の購入費用の助成が600万円に拡充されました。かなざわピンクリボンプロジェクトでは、この助成を活用してもらい、いつも・楽しんで・美しく輝くために「スマイル・エンジョイ・ビューティフル」を合い言葉に、がん克服者のファッションショーを行いました。

11月7日に石川県立中央病院で、メッセージマジックと題して開催したイベントでは、実行委員長である吉野先生の乳がんセミナー、ウィッグ専門の美容室を展開する山本耕史氏によるビューティーセミナーを行った後、13組のがん克服者が、個性的な衣装でランウェイを歩き、ビューティーアピールを行いました。

また、北陸で2頭しかいないという介護犬も参加して、ランウェイを歩いてくれました。



## メッセージランチ

美味しいランチと、乳がんの正しい知識。そして、SDGsの大きな問題について学び、考える「メッセージランチ」を開催しました。

12月10日、ハイアットセントリック金沢で開催されたメッセージランチでは、ピンクリボン・オリジナルランチ・コースとして考案されたオリジナルメニュー「豊潤な美りに感謝して、今年1年を振り返る。充実の風にそよぐピンクリボンのように」を楽しんだ後、吉野実行委員長の乳がんセミナー、学生の立場で、SDGsに取り組んでいる金沢大学3年生の2人組学生チーム「わこころ」による食の廃棄問題についての講演が行われました。

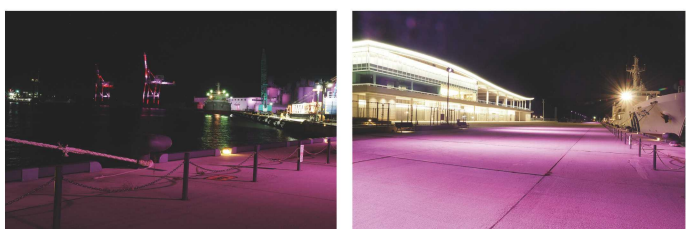


## メッセージツリー・メッセージライトアップ

たくさんの方々がメッセージをいただきました。

例年、しいの木迎賓館と金沢港クルーズスターミナルで行っている、メッセージツリーですが、しいの木迎賓館が国民文化祭（いしかわ百万石文化祭2023）の会場となったため、金沢港クルーズスターミナルのみで10月2日～31日の設置となりました。

また、10月8日～10日には金沢港クルーズスターミナルでメッセージライトアップも行いました。



## 編集後記

令和6年1月1日に能登半島をM7.6の地震が襲ったから、2か月が経過しました。その被害の大きさに、未だ被害の全容が見えない中、もうすぐ新年を迎えます。

比較的被害の少なかった市町では、通常通りの健診を行えるよう準備を進めています。が、これまで健診を行っていた会場が使用できないなど被害は甚大です（また被害は県下全域におよんでいます）。ましてや、被害の大きかった地域では健診担当の方々が健診実施に向けた努力をされていますが、課題は山積みです。さて、令和6年の干支を見ると、甲辰（きのえたつ）となっています。

甲辰の年は「成功という芽が成長していき、姿を整えていく」という意味があるそう。で、前回の甲辰の年には東京オリンピック開催や東海道新幹線の開通などという、象徴的な出来事がありました。永い努力が実った出来事と言えますね。

地震からの復旧はまだこれからですが、復旧に携わる人たちの努力が、実っていくことを願っています。

さて、今回のセンターだよりでは、過去30年の大腸がん検診について振り返りました。精度管理のため、専門委員会での検討や機器の更新管理などを行ってきたことがわかります。

今後引き続き、検診の精度管理の向上に注力していきたいと思えます。